

## 令和6年度第2回中央区教育会議 会議録

令和7年3月11日(火)

18時～19時10分

中央区役所7階会議室

### 【覺野中央区教育担当課長代理】

本日は大変お忙しい中、またお足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから、令和6年度第2回中央区教育会議を始めたいと思います。

私の方は、本日の司会進行務めさせていただきます教育担当の課長代理の覺野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

またこの会議は公開となっております。傍聴の方はおられませんのでそのまま進めさせていただきます。

なお、会議録を大阪市ホームページで公開いたします。会議録作成のため、本会議の録音をさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

なお、開催時間については、午後6時から7時半までを予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは各委員の紹介をさせていただきます。こちらからいきましょうか。馬場委員でございます。

### 【馬場委員】

よろしくお願いいたします。

### 【覺野中央区教育担当課長代理】

大重委員でございます。

### 【大重委員】

よろしくお願いいたします。

【覺野中央区教育担当課長代理】

岡本様は、また後程来られるようです。

山口委員でございます。

【山口委員】

よろしくお願いします。

【覺野中央区教育担当課長代理】

黒田委員でございます。

【黒田委員】

こんばんは。よろしくお願いします。

【覺野中央区教育担当課長代理】

瀬戸委員でございます。

【瀬戸議長】

よろしくお願いします。

【覺野中央区教育担当課長代理】

日高委員でございます。

【日高委員】

はい。よろしくお願いします。

【覺野中央区教育担当課長代理】

上町中学校の松井校長先生も来られてれております。ありがとうございます。

【松井校長】

お願いします。

【覺野中央区教育担当課長代理】

南小学校の池田校長先生でございます。

【池田校長】

よろしくお願いいたします。

【覺野中央区教育担当課長代理】

事務局サイドですね。

教育担当、中央区教育担当次長の稲嶺区長でございます。

【稲嶺区長】

稲嶺です。よろしくお願い申し上げます。

【覺野中央区教育担当課長代理】

中央区、教育担当部長の小林副区長でございます。

【小林副区長】

こんばんは。小林でございます。

【覺野中央区教育担当課長代理】

中央区教育担当課長の平田課長でございます。

【平田中央区教育担当課長】

いつもお世話になっております。ありがとうございます。

【覺野中央区教育担当課長代理】

改めまして私の方が中央区教育担当課長代理の覺野です。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに中央区教育担当次長よりご挨拶の方をいただきたいと思います。稲嶺区長どうぞよろしく願いいたします。

【稲嶺区長】

年度末、また寒い中お集まりをいただきましてありがとうございます。

4年前に私が中央区に着任いたしまして、もう早いもので、もうこの3月で4年の任期が終わろうとしておりますが、その間ですね、皆様方に大変お世話になりました。できるだけ皆様方のご意見をちょうだいしたいということで、これまで、1回だったところ、2回、ちょっとご負担をおかけしてるところもございますけれども、そういった形で幅広く、皆様のご意見を聞き、それをまた予算に反映する、振り返るということで、進めて参りました。

今日もご説明をさせていただきますけれども、中央区の教育環境というのが非常に大きな、変換点に入っております。これはこの場でもいろいろ皆様方のご意見をちょうだいしながら、よりよい教育環境をどういうふうに作っていくんだと、もう課題もたくさんございますし、それを1つ1つ乗り越えていく必要もございます。任期が終わりかけてるときに、こういった話をさせていただくと、誠に申し訳ないんですけれども、これは一朝一夕になる話ではございません。これから何年もかけて進めていく部分でもございますので、本日いただくご意見も踏まえて、次年度、次の区長にも引き継ぎながら、整えて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【覺野中央区教育担当課長代理】

ありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきます。これより先の進行につきましては、前回会議にて選任いただきました、瀬戸議長の方をお願いしたいと存じておりますので、よろしくお願いいたしま

す。

【瀬戸議長】

こんばんは。本日議長を進めさせていただきます瀬戸です。よろしくお願いいたします。着席にて、議事の進行をさせていただきますので、ご了承ください。

それではただいまから議事に入らせていただきます。まず議題1、主な教育関連事業の状況について、区役所の方から説明をお願いいたします。

【平田中央区教育担当課長】

それでは私から、議題1、主な教育関連事業の状況につきましてご説明申し上げます。

お手元の資料の1に、この主な教育関連事業の実施状況についてまとめてございます。ただ、こちらにつきましては、前回の教育会議の方で、途中までの進捗の方もご説明をさせていただいておりますところで、次年度につきましても、基本的に継続をという風に考えております。なので、ご報告を簡潔に説明させていただきます。

まず、1ページ目、子どもの体力向上支援事業につきましてですが、その後の進捗でございますが、12月には指導者向けの講習会の方も、開平小と南小学校の方で実施しまして、日頃の授業や子供たちの学校生活のちょっとしたタイミングで生かしてもらえるように、取り組んできているところでございますので、令和7年度も引き続き継続で、子どものための予算の審議会で審議いただいているところでございます。

続きましてめくっていただいて、子供の英語力向上支援事業につきましても、最終、令和6年度実績といたしましては、3中学校の合計が321人。5級4級3級、続いて準2級が51人、受けてくれております。2級23人、準1級1人ということで、非常にご活用いただいて、これを目標に頑張っ、授業でも取り組んでくださっているというふうに伺っておりますので、令和7年度につきましても引き続き実施していきたいというふうに思っております。

で、次に民間事業者を活用した学習支援事業なんですが、前回ご説明しましたとおり2学期、12月から小学校も対象にしていきますということで、おかげさまでスタートしております。ただ、今のところ、生徒が2名っていうところなので、校区外に来ていただく子については、親御さ

んの付き添いがいたりとかいうようなことがちょっと課題になりますので、小学校については特に南小学校を中心にとということにはなるかと思っておりますので、引き続き多くの、少しでも多くの子供に活用していただけたらなというふうに思っております。これも予算要求については継続して実施していきます。

続きまして外国に繋がる児童生徒エンパワメント事業についてでございます。これについては、皆様、ご承知の通り、中央区には外国に繋がる児童生徒さんが非常に、急激に増えております。その子たちの学校生活の身近な支援ができるよう、安定した学習に繋がるサポーターを配置してるんですが、延べ、サポーター配置数としては20名ですが、延べ活動時間が2053時間と、1月末で活動していただいているところです。これ非常に充実、学校の中に入っていて、助かるなというお声をいただいております。ただ、引き続きなかなかサポートしていただける人材が、確保が課題があるということも、あるんですけれども、引き続き、区内でも、サポート募集をホームページ等で募集するなど、支援をしていきたいと思っております。

次に、同じく外国に繋がる若者保護者のエンパワメント事業で、保護者さんの日本語の支援、学習の支援でありましたり、一旦小学校、中学校を卒業した後の子供たちが、若者たちっという言い方してますけれども、戻るところがあると。そういう姿を見て、また、今の子供たちが安心していけるようにっていうことを目指してる事業なんですけど、2つについて、保護者のサポートについては、令和7年2月末に日本語学習サポート延べ253名の方が参加していただいている。若者の集いも前回ちょっとご報告、ぎりぎり間に合うか間に合ったぐらいだと思うんですけど、12名の方が参加いただいて、集いの場を設けているところです。これも引き続き、内容をより充実させながらやっていくことになっております。で、次はページがちょっと参考にチラシですね。

小中学校における人権学習の充実っていうことで、聴導犬、手話学習会、盲導犬の学習会に加えて、実はアイヌの方の人権問題について、来年、このメニューに加えることにしております。これ一度、区の人権推進委員の皆様向けの研修会を実施しましたところ、非常に好評で、もう終わった後も、なかなか人が引けずに、もう講師の先生の前に集まって、輪になってっていうところで、なかなか大阪ではそのアイヌの方の人権問題っていうところに興味を持つっていう機会も少ないと思うんですけれども、その機会を持つことで、いろんな知らない人権の問題が

あるんだっていうことを、子供たちにも、アイヌだけではなく、ということで気づいてもらおうということで、来年は小学校、中学校でも、ちょっと数は限られるかと思うんですけども、活用していただけるようにメニューを増やすことで、ほぼほぼ、調整ができているところでございます。

続きまして、中央区読書活動推進事業と区長による表彰事業ということで、読書事業はそちらに書いてあるとおりですが、区長による表彰事業につきましても、つい先日も東中学校の生徒さんの表彰をさせていただいて、ホームページ等でもご紹介いただいたところで、やっぱり、校長先生とかも、ちょっと子供たちに、そういう、特別な、褒めてもらう場っていうのを設けるっていうことに非常に意味があるんだということで、喜んでくださってますので、引き続きこれも実施していきたいというふうに考えております。

次は万博のクリアフォルダーの、今日、見本として、机上にクリアフォルダー、置かせていただいているんですが、これを作って、子供たちに、小学校中学校に配っております。で、4月に入ったら、もう中央区の学校早くに、皆さんの見学の、万博の見学にもう一番乗り二番乗りぐらいで行っていただくようにお伺いしてますので、ぜひ、機運醸成といいまして子供たちが行ったらきっとすごく楽しいと思いますので、そういう場になればいいなというふうに思っています。その種をクリアファイルでまきましたというところでございます。

子供の貧困をなくすための学校等の支援事業につきましても、予算要求が継続しておりますが、これ重点事業の3年目、来年が3年目なのでその先っていうところは、今時点では不明なんですけど、とは言え、非常にこの3年かけて、不登校の支援に繋がっておりますので、引き続き来年、しっかり、これも実はサポーターの方がなかなか見つからないっていう、課題もあるんですが、引き続き、区役所でも人探しに取り組みたいというふうに思っております。

大きくそういうところで、前回の区政会議の皆様からいただいたご意見をご紹介したところなんですけど、資料2につきまして、区政会議自体は、例年ですと9月から10月に開催してるんですが、今回については9月10月には区政会議は開催しませんで、その代わりに、もう少しグループを超越した、多くの意見をいただこうということで、区政会議委員の皆様には全部お声掛けをして、ラウンドテーブルという形で、もう少しなんて言うんでしょうかね、リラックスした感じで、意見交換の場を設けさせていただきました。そちらで、教育、子育て学びについていただいたご意見をちょっとご紹介させていただきます。

まず、英語など外国籍児童が多い学校は、そのことをプラスの特色として特化した学校にすることもよいのではないかと。というご意見をいただきました。その回答とその場での回答といたしましては、おっしゃる通り、児童にとっても地域にとっても望ましい形っていうのを検討していく必要が、課題をプラスに据えて、検討していく必要があろうと考えている旨をお話したところです。

次に、小学生と話をしてる中で、教室がとても狭い。学校をつくればいいのというお声があったと。容積率の緩和は狭い土地、狭い土地を有効に利用するためによいことだったとは思いますが、オフィスや商業ビルを想定し、これほどマンションが建つことを想定しなかったのではないかと。今後もまだ増えるんじゃないかっていう率直なご意見をいただきまして、区としましては、人口減少の中で人が集まることは喜ばしいことだが、急激な児童数の増加によって学校の狭隘化が課題となっている。中央区においては用地確保の難しさなどの課題もあるが、全市を上げて取り組んで参りたいということをいたしております。

続きまして、外国にルーツを持つ学生が増えているが、学習面でどのようなサポートを行っているのか。また保護者の地域活動への参加の参加状況はどうなのだろうか。というお声をいただいています。子供は学校生活の中で言語が上達していくけれども、両親が日本語に慣れていないため、家庭内で会話が繋がらないといった問題も発生している。幼稚園で外国籍の保護者に講師となってもらい、自国の料理を教えてもらう催しをきっかけに、保護者同士の関わりを持ってもらえるような地域の取り組み事例があるのをご紹介いただきました。外国籍の子供に対しては、他自治体でのサポート事例をもっと参考にしてはどうかというお声をいただいております。で、区としてはサポーターによるやさしい日本語での声かけや、これ先ほど事業にありましたサポーターのことなんですけれども、サポーターによるやさしい日本語での声かけや、継続した日本語教育などを行っています。また、日本語を早く習得してもらえるよう工夫した教材を学校独自で作成されておられます。ただし、もう数が急増、また国籍が非常に多様化していることで、対応が難しくなっている面もあるのは事実である。様々な工夫を行いながら、地道に日本語教育を行っていらっしゃるところでございます。で、様々な家庭環境文化的背景の差異もあって、なかなか地域活動への参加に繋がらないのは現状にございます。区の事業としてMinamiこども教室での保護者の相談なども行っておりまして、両親も含めてサポートを行うことで、孤立し

ないような取り組みを行っております。また地域で取り組んでいただいている事例も参考に、日本語を学ぶだけでなくスポーツや料理などの交流も含めるなど、地域との一員とじてもらえるよう、また地域の皆様へもお願いをしていきたいというふうに考えておりますということをご説明したところでございます。

資料、議題1につきまして、ご説明は以上でございます。

【瀬戸議長】

平田課長ありがとうございました。

それではただいま説明ありました内容について、委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。何かご意見ご質問等ございますでしょうか。はい。

【大重委員】

はい。大重です。

小中学校支援サポーター募集ということでありますけれども、このボランティアの提案なんかすごい良いアピールだと思います。この条件みたいなのが、どんな感じであるのかな、学校ごとに違ったりとか、いついつ、日にち、期間とか、それも、それから公表という形じゃなくて、学校に問い合わせってという形で区で募集してるということ。

【平田中央区教育担当課長】

こちらにつきましては、有償ボランティアで、学校の事情等も合わせて一定の制限の範囲の時間の枠がありますので、その時間の枠の中で、活動していただくというのが前提の制度になっておりまして、特段の資格、とか言うのは求めておりません。あくまでもボランティアです。とは言え、それぞれの学校で、課題、学校ごとの課題実情に応じて、何時間ぐらい来てもらえたら一番ありがたいんだとか、こういうちょうどうこういう人柄といいましょうか、こういう方を求めるんですっていうのが、個々学校の、実際学校現場でやっていただきますので、お声があれば、いくつかこっちへ区役所の方からも学校でもお声掛けをして、お繋ぎしたりっていうような状況ですね。特に資格は。ただ、学生さんであれば、ボランティア加点が教員採用試験のとかの、一

応加点になる仕組みにはしております。はい。

【大重委員】

ちなみにこのQRコードからアクセスしてっていうのが基本的な。

【平田中央区教育担当課長】

そうですね。はい。

【大重委員】

どんどんやっぱり、もっと、きっと、ふやしたいというところがあると思います。募集の仕方もういろいろ工夫していただいて。ありがとうございます。

【瀬戸議長】

ありがとうございます。他何かございますでしょうか。馬場様お願いします。

【馬場委員】

ありがとうございます。

外国に繋がる子の児童の、これがなんかすごく気になるんですけれども。授業で、子供さんは、いろんな言葉で、授業は日本語でするんですよね。それで、ちゃんとうまいこといってるんでしょうか。何か中国の方が多いとか、何かいっぺんに増えたとか、そういうお話聞くんですけど、そういうお子さんたちは、授業の内容が理解できてるんでしょうか、どうなんでしょう。

【池田校長】

失礼します。南小学校の校長池田でございます。

やっぱり日本語ゼロのお子さんというのは、全く入ってないお子さんっていうか、子供さんもいらっしゃいます。実際に。大阪市の制度として、最初にプレクラスっていう2週間ひとくくりっていうか10日間ひとくくりのそういう制度があって、そこで、ここのちの拠点、うちが拠点になって

るんですが、そこで基本的な日本語、例えばトイレとか、お早うございます挨拶とか、そういったものをその10日間の間に学んだ上で、その学校さん、だから、各地からいらっしゃいます。で、うちの学校にも、全く南小学校じゃないお子さんもいらっしゃって、うちで学んで自分の地域の小学校へ行かれるっていうふうな、こともさせていただいてるということと。

【馬場委員】

すごいですね。

【池田校長】

そうなんです。4ブロック、4つブロックがあってそこに行くことになってますので、うちは、第3かな。そこに集まってくるという。だから地域は限定されてるっていうことなんです。そのあと、学校へ、小学校へ、クラスに入るんですがそこでは、日本語、本校では日本語指導教室があります。日本語をそこで学んで、抽出して、日本語を学ぶということとそれから、教室にかえってももちろんその算数とか、そういった授業は日本語でやりますので、やっぱり日本語ゼロの状況ではやっぱり難しいっていうふうに、とは思います。ただ、日本語指導はもう引き続き重点的にずっと続けていって、ある程度の学習言語が入るぐらいまでは、1年生から、1年生に入った子たちは、そこからずっと日本語指導を受けて、ある程度の線があるんですけど、そういうふうなところで学んで、そういうところまで学んで、学校の日本語の授業をきちっと受けていくっていうふうになんてなってます。はい。

【馬場委員】

両方、大変ですね。

【池田校長】

大変です。これはもう正直言わせていただいて、ものすごい大変、ものすごく大変です。

ただ、日本語に触れて、言え日本ですと生活していくっていうことが前提になってるので、子供たちは、やっぱり一生懸命学びます。はい。会話とかはすごく、その日常言語というのは

すごく、すぐ入ります子供は、個人差ありますけど。ただ、学習の言語になると、難しい部分がやっぱり出てくるので、そこをどうやって伸ばしていくかっていうのはもう常に課題として学校にはあります。

【馬場委員】

ありがとうございます。

【瀬戸議長】

ありがとうございます。他、何かございますでしょうか。

【稲嶺区長】

今のことで少しコメントしてもいいですかね。

私もあの、各学校の状況を校長先生を中心にお聞きしてましてね、やはり特に中央区はやっぱり人口の今で、これ、大人も含めてなんですけど、10%超えてきてるんですね。そうしますとやっぱり当然、小学校、中学校に外国から来られると。そうすると、昔やったら、それほどクラスに1人程度っていう学校が、南小学校は別格に多いんですけども、大阪市内の中、小中学校でいきますと、まあまあ、クラスに1人いてたかなぐらいのときがあって、そのときでも相当大変だったんですが、これが2人以上なってきますと、もう相当厳しい状況だと。ということもあって、実はこのラウンドテーブルですね、のときにも少しお話を聞かせていただきました。

1つのアイディアとして、学習言語ある程度定着するまで、集中的にしたらどうなのっていうお話も出てましてね。そうすると、それから、元の学校に戻って授業を受けるというアイディアもあるよねという話をしますと、委員さんのお1人から、大学はそういうことしてるよねっていう話がありましたね。要は留学生がやってきます。そうするとトータル例えば3年4年という留学期間があったとして、そのうちの例えば1年間をみっちり日本語教育をやるんだと。それで大学の授業がある程度わかるところまで引き上げた上で、大学に戻すと。最初っから、いきなり大学入ってきてもちんぷんかんぷんのままずっといくことになるので、むしろ集中的に学習言語を入れたほうが、トータルの、いいよねという話もございました。

これ、大学生と小中学生がおんなじ話にはなりませんけれども、1つのアイディアっていうこともありまして、何が一番いいのか、これから模索していくことになりますし、また先生方のマンパワーが必要なこともございます。拠点にするのはどこがいいんだろうとか、いろいろ課題もありますけれども、これだけ、外国の方、特に中国を中心に増えてくると、やはりそういったこともしっかり入れていかなあかんかなというのが1つ。

もう1つがですね、来年度から教育委員会予算を取って、アプリを入れてですね、外国語が、変換していく、日本語と外国語が双方に、通訳ができるようなものを、予算として入れていこうとしてます。また、中央区的には、若干その社会実験的に別のアプローチをしているところがありまして、そこ、1度試したらどうなのというお話もあったりしますので、いろんなことを進められたらなと。ただその、アプリが優秀すぎますとなかなか日本語を覚えられないというジレンマもありますので、そのあたりを日本語の公立小中学校でどこまでそれを入れるのかといったところも一定いろいろ議論していかなあかんかなというところがございます。万博も来月から始まりますし、その中ではいろんな翻訳の部分を使ったりするという話も聞こえておりますので、そういった時代が到来してきたなあというような実感でございます。

はい。補足をさせていただきました。

#### 【瀬戸議長】

ありがとうございます。他何かございますでしょうか。ないようであれば、続きまして議題2の方に進めたいと思います。

中央区の教育環境について、区役所の方からご説明お願いいたします。

#### 【稲嶺区長】

はい。

これは私の方からご説明をいたします。資料3というところ。中央区の地図が載っておりまして、現在の小中学校のクラス数であるとか、生徒数とか、そのあたりを示しております。ちょっと目が慣れないとわかりにくいかも知れません。

中学校、太線で校区を分けてまして、点々が、これ点々が小学校単位という形になってます。

一番上のところに開平小という、オレンジで塗りつぶしているところがあるんですが、実はあの、中央区、発足した当時、平成元年ですけども、その時は5万数千人でスタートしてるんですね、今11万7000人、倍以上増えてます。特にやっぱりマンション、タワマン等が増えますとファミリーの方も増えておりますので、小中学生がこれ、ここへ来て劇的に増えてしまったということもございます。そういうこともあって、当初、7つの小学校3つの中学校ということで公立はスタートしてるわけですけども、それも一定、統廃合を終えた形でスタートしておりますので、そこからここまで急激に増えてくるっていうのは、なかなか想定が難しかった面もございます。ということもあって、大体、地図の上ぐらい、上のところですね。は結構急増、タワーマンションが多く建てられると、エリアということもありまして、一番顕著なのは開平小学校、これもともと小さな規模の小学校ですんで、増え出しますと、なかなかこの中で収容が難しい。校庭も狭いですし、校舎も十分でないと。もう、各学校増築してる学校多いんですけども、増築をしても、収容しきれない。もう近い将来、パンクしてしまうというのが見えて参りました。ということもありまして、一番、喫緊の課題として、厳しいのは開平小学校なんですけど、それ以外でも、そこに示しているように、玉造もそうですし、南大江も多くなってます。そういった状況の中で、今のままでは、子供たちの教育環境が著しく阻害されるということもありまして、今時点で考えておりますのが、大きく2つあります。

1つは物理的に、新しい学校を作っていないと入らないねっていうのが1つでございます。特に開平小学校の急増対策っていう、或いはそれを含めて、その周辺の学校の対策といったことにも繋がって参ります。

もう1つが、学校選択制を一部制限かけられないかというお話もございます。これは地域の子供たちが、その、以外の子供たちがですね、その学校を選ぶということについて、十分余裕があれば、もちろん選択制というのは、非常に効果的な部分がございますが、地域の子すら入れないというふうになってきますと、一定制限かけないかということなので、去年の11月ぐらいから、中心区の区を中心に、この問題、どう進めていこうかというのを今検討しております。北であるとか天王寺とか、阿倍野とかですね。やっぱりマンションが多いところ、子供たちの数が急激に増えてるところは一定そういうことも必要だねということで今、しっかり議論しているところですよ。

もう1つは、指定外就学、一旦ここに住まわれてても、転居されている場合がございます。そうすると、引き続いてやっぱり元の小学校に行きたいというご希望もあるんですが、これなかなか難しいんですが、一旦、住民票形の上で置いてまた出ていくみたいなですね、本来の趣旨を少し逸脱しているようなこともあるんじゃないかということは議論されておりまして、そこについては、今回の学校案内にも少し書かしていただいておりますけども、適切な、校区での就学と、ということ、今、しっかり議論をして、地域の子供たちが学校にきちんと通えるようにという、そのソフトハードと両方両面で今進めているというところでございます。ただ、なかなかこれハード面になりますと、時間がかかります。今から設計をして立てていく。5年6年とかかって参りますので、地域の皆様方とお話を進めながら、計画を立てていこうとしてるわけですが、なかなか時間的に厳しい、時間との戦いということもございまして、案としてどこまで地域の皆様と、理解得られるのかということもございまして、もう少し早くスタートを切れというお言葉もいただいておりますが、今とりあえずスタートを切って、次年度予算を要求してるという状況にございます。

それと、それと裏腹でございまして、やはり今日も先生いらっしゃってますけど、南小学校につきましては、これ高津小学校もそうですけども、ずっと単学級で来ております。もともと、学校のキャパが単学級をイメージした形で作られてるんじゃないかなというところもあって、校地がそれほど大きくない、ここに推移してきてるんですが、新しい学校を、ここに、実は元南高校グラウンドと書かれた地図の真ん中より少し西寄りみたいなところに書いてますけども、ここを今想定しております。ここは旧の南小学校の校区の中にありますから、当然、南小には影響が出てくるということもございまして、で、そこに新設校を作る。それが南小学校のエリア内、そういったところを含めて、南小にも、或いは高津にもですね影響するかもわからないし、南中学にも当然、小学校が影響するということは中学校にも影響してくるというようなこともございまして、その辺りをどういうふうにバランスよく対策をとっていくのか。ここは非常に、難しい部分もございまして。先ほど、外国にルーツのあるというお話も出てきましたし、そういったところも含めて、どう魅力づけをして、子供たちの教育環境を整えるのかということが課題でございました。今日まず、スタートラインでどういう現状になってるのかどういう方向を向こうとしてるのかということをお客様にお伝えして、いろいろなご意見ちょうだいしながら、この議論を精力的に進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【瀬戸議長】

ありがとうございました。

それではただいまご説明のありました内容について委員の皆様からご意見を伺いたいと思います、何かございませんでしょうか。

【岡本委員】

開平小学校の方が、この旧の南高校のグラウンドに建てられる新しい学校へ行くっていうことでしょうか。

【稲嶺区長】

そうですねこれ、主に、やっぱり開平小が、もう令和12年ぐらいには、教室不足になると見込まれておりまして。そうすると、その受け皿的に、優先順位は非常に高いと思います。ただ、それ以外の学校をどういうふうに希望された方がこられるのかっていうのは、これからしっかりと、制度設計していかなあかんというところになりますので、例えばまずは開平小学校の皆様方、現在、通わせている保護者の皆さんにアンケート調査をとるとかですね、そういったことも入れながら、状況を確認していきたいと。これ絵柄が出てない中で、アンケートってなかなか難しいところもあるんですけども、徐々にこう、プランの中身を皆さんと協議しながら、意向調査もあわせて行っていきたいというふうに思っております。

【瀬戸議長】

ありがとうございます。他、何かございませんでしょうか。

もしないようであれば1人ずつ何かコメントいただければと思います。馬場さんの方からよろしく願いいたします。

【馬場委員】

これは次々とマンションが建っていきますでしょう。それが原因なんですか。

【稲嶺区長】

そうですね。率直に言いますと、それが主たる、原因ですね。

従前は空き地があったらひょっとしたらマンションかなっていうこともあったんですが、今、どうも、旧のビルを建てかえて、タワマンにしようという動きも出てきておりまして、現在、まさに開平小学校の南側に、旧のオフィスビルがマンションになろうとしてるところもありまして、なかなかこの将来どこでピークを迎えるのかどうかも、難しいところです。

【馬場委員】

谷町9丁目のなんか、マンションがね、できるとか聞いてますので、大変なことですね。

【稲嶺区長】

はい。まさに今日の市会議論でもその辺も含めてですね、去年も、9月に地域から要望もいただいて、その中で、私も少し質疑の中でお答えしてますし、教育長も答弁してますし、市長も答弁をしてるというところもございまして、やはり大阪市あげての課題になってございます。街としてどういうまちづくりをするんだという、ある種根幹の部分にも関わるところでございまして、非常に難しい課題でありますけども、でも教育環境を整えるということがやっぱり第一義になって参りますので、そのあたりを、地域の皆様の声も聞きながら、100点満点の答えはなかなか出てこない部分もございしますが、今あることで、何ができるのかっていうのを探っていくというところになります。

【大重委員】

はい私自身今、地域の代表としていろいろお話もさせていただいてるところではあるんですけども。まあ解決策っていうのは1つだけでやっぱりない、新しい学校つくればそれで済む話でもないと思います。先ほど言われた外国語にルーツがある人というところもありますし、校区を超えてっていうところも、あるんで。やっぱりここに、元南高校グラウンドに新しい学校を作るって言っても、大した広さがない。ここにまた、開平と同じような小規模なものを作って、もうね、また

おんなじ問題を繰り返す可能性も、ありますし、この間テレビでもね、ちょっと取り上げていただいて、コメンテーターの方が言っていたのが、また作って人が減ったときどうすんねん。これはもうそれをもちろん考えた上で作らなきゃいけないと思うんで、例えばその民間も入るような施設を、増やしたりとか、そういうこともいろいろ考えていただきたいということで、いろいろお話をしているところです。

#### 【岡本委員】

この元南高校っていうところは一応この中央小学校、上町中学校の、校区になってるんですけど、何にも使われずに、その校舎を置いてある感じになっていますよね。これもまた、もったいない話で、中央小学校は、校舎を建てましたけれども、何か、南高校が閉校になるときに、あっちを使えるんじゃないかとかいろいろ、そんな話もあったんですけど、新しい校舎を建てていただきました。でもこの、元南高校も何とかもうちょっと利用できたらいいんじゃないかなと思ったりもしています。あと、あんまり先のこと、その先のことっていうか、どうしていけばいいのか、私もさっぱりわかりませんが、中央小学校、私は中央小学校区なんですけど、はい。もう、最近は千を超すかと思ったんですけどちょっと落ち着いてる感じもありますよね。だけど本当に、外国籍、日本語が必要な児童も本当に増えてるっていうことで、やっぱさっきおっしゃったみたいな、学習言語能力とね、生活の能力っていうのは全然違いますから。そこもまた大変やなっていうふうに思いますけど、親の都合で子供たちは連れてこられているので、何か協力できることがあれば、したいなと思いますがそんなサポーターとかそんな気はないんですけど。ていうようなことも、地域としては、思ってる人もいるということもお知りおきください。

#### 【山口委員】

どうもいろいろありがとうございます。

私は逆に一番人数の少ない高津小学校のエリアから来ている人間でございます。実際のところ、高津小学校、今年ですねこの新入学の1年生が8名と、非常に、つい二桁切ってしまった状況になっております。で、実際、いろんなことを地域の人間としても考えてはいるんですが、高津小学校の前に新しいマンションとかもたくさん建っておる状況なんですね。状況としては何

かあれば箱がすぐ建つっていう形にはなっておるんですけども、どうしてもその黒門市場の関係上、インバウンドの関係でですね、民泊仕様の建物ばかりになってしまってるんです。要は、住民がおられない。あくまでもその宿泊施設としてその建物が存在するっていう形になってしまってますね、思ってるよりもその箱がある以上に人がいてないっていう状況正直抱えております。だからそういったところが例えば、本当に賃貸物件という形、もしくは分譲物件という形で活用していただけるっていうことをオーナー様も含め、もうちょっと理解いただけるのであれば、少しその人数であったりとかファミリーの方々に誘致、頑張っってこちら地域としてもさせていただいてですね、小学校の人数ってのはできる限り増えて生かせればなあというふうに思っておるんですけども、なかなかちょっとそういったところが難しくて我々も打開策が今見えない状況ではありましてですね、黒門市場さんとも結構いろんな話は続けておるんですけども、どうしてもお商売柄そういった形に傾倒していってしまうということは否定しがたい事実でもございますし、なかなか難しいものではありますので、我々としてももう少しこう、柔軟にいろんなことを考えていただけるような、社会環境整えていくっていうことには、地域としても努めていっているところではございます。そういった意味では、高津小学校のそのエリアですね、移り住むというか、そういったことがまたできてくれば、少し人数の分散等々も見えてくるのかなあと思うんですけども、果たしていつになるかというのはわかりませんので、あんまり迂闊なことは言えないなと思っておるんですが。

はい。逆に少なければ少ないという部分においても問題を抱えているということをまた改めて、ご理解いただければと思っております。以上です。

#### 【稲嶺区長】

はい。今の話で少しコメントなんですけども、まさにおっしゃるように、中央区の中でも、どんどん子供たちが増える学校と、それほど増えない、実は高津小も南小も、エリアの中には、子供たちいてるんですね。ただその、公立の小学校を選択しなくて私立に行く、という方々もいます。だから、ある、ある種のニーズをうまく捉えれば、ひょっとしたら、ここについては、通っていただける可能性もありますので、ここはやっぱり魅力づくりといいますかね、地域に合った学校づくりって何だろうというところをしっかりと検討していく必要があるのかなと。

それとあと、先ほどのね、岡本さんの話で、元南高校どうするのという話もありました。今まではどちらかというと、学校の跡地は売っていきましようかみたいなね、開平小のところも、もともと愛日と集英があって愛日は売ってしまいましたという、確かに魅力的な土地すぎてなんですが、今残ってる、他のところどうなのって言いますと、僕は次の区長に引き継ぎますし今大阪の全体のトレンドやそうなんですけども、土地は、何が何でも売ろうじゃなくて、一定利活用していこう、或いは借地にしといて、いずれ返って、まあ定期借地ですね、しといて、やっぱり必要なときに、それを活用しようというトレンドに変わってきております。中央区は特にそうです。もうここで手放したら戻ってこないのですね。元南高校を売ったらタワマンが建ちそうな感じがどうしてもしますので、それは具合悪いだろうと。で、どういうふうに活用するんだと。ただ校地が極めて狭いので、ここに一定規模の小中一貫校でも建てましょかといってもなかなかそれだけのものがないので、そこは、中央小とか上町中の状況どうなってくるんだろうなというのをにらみながら、今後のプランを考えていく部分が、少なくとも売却しないようにしておかないと、後でえらいことになるなというのは、この間の経過で手痛い経験をさせていただきましたので、はい。そういったところでございます。

すいません。黒田先生、よろしくお願いします。

#### 【黒田委員】

はい。失礼します。

前東中学校の校長という立場から、この問題ずっと、私が着任した11年前から、10、10年後にはこういう状況になるということはもう、数字も区役所さんも出してはったんですけども。東中だけで言うとその予想を上回るペースで人口増になっていると。イコールそれは校区の小学校にも、どういようなことが言えて、私が在職中も、4小学校すべて、新校舎を建設したという状況で、その時も開平小学校さんが、さらに急速に人口増になって、児童も増加するというのは数字としては、予想されたことだったんですけども、見ていただいたらわかりますように、東中学校校区は非常に広く、電車で子供たちが通学するような立地条件にもなってるということで、今の区長さんがご提案いただいた、新校の設立、元南高校のグラウンド、さらに学校選択制の制限、指定外就学の見直しということ事だったんですけども。東中の状況からいうと、学校選択制

の制限及び指定外就学の見直しといっても、人数的には本当に知れてる数だと思うんですね。それは4小学校もおそらく、同じ状況なのかなあというふうな気はしています。

さらに開平小学校の生徒さん、児童さんを中心に、新設校の校区ということにしたとしても、開平小そもそもは、かなり東区の東部、北部にありますので、北部に住まわれてる方が、その元南高等学校の新校に、児童が通うということは、非常に困難な通学になるのかなあということを想定すると、本当にちょうど真ん中よりも南にお住まいの方が、基本校区割になるのかな。

一方で南大江小学校もかなり人口増で、もうすでにもう今もうパンパン状態というふうに聞いてますけれども、南大江小学校も、元南高校の新校ができると、通学エリアとしては近いところにあるのかなあという気がします。ということを考えると今の校区のあり方もそうですけども、今1つの空き地の候補ということですけども、もうそれ以外どこ探しても出てへんのかなっていうのは、正直なところかなと思いつつ、私が在職中には、難波宮の後の教育委員会の土地なんかも活用できないかとか、大阪城公園のちょうど歴博の向かいぐらいの駐車場が、あれも教育委員会が所有してたということで、何とかならないかっていう議論もあったんですけども、結局、環境局のmatterになったりとかして、かなわなかったり、中央高校も結局今、府立になってしまったりとかいうことで、どんどんこの想定がありつつ、それに対する対応策が明確に方針が出ずに、今日に至ってて、結局今のような状況で、どうしたもんかということになってるので、本当に円満解決っていうのはないのかなあというふうな正直なところですよ。

今日たまたま東中学校の高橋校長と話したら、今日時点で改めて新入生が、どんと来たと。それは1つは、東中校区もそうなんですけども、私立の中学校に受験をした児童たちが不合格となって戻ってきたりとか、校区外からも、それこそ転居等も含めて、東中学校に改めて就学手続きに来られて、くることになるということも含めて、この時点で8クラスを想定したけど9クラスになるかもわからんみたいなことを、今日ここでおっしゃってて、もうそういう意味では人数がもうさらに増えて、普通教室を確保するのが本当に大変で、特別教室を変えて、普通教室に変えて対応しなくてはいけない状況にもなりそうですということを今日おっしゃってました。東中学校も一期工事やっとなんて終えて、何とかグラウンドを確保しながら工夫した校舎の建て方をしたんですけども。もう性急に第二期工事をするのかしないのか。ちょうど校舎と第一期工事の新設校舎との間に、ちょっとスペースがあるんですけど、そこに校舎をほり込んでしまうと、もうグラウ

ンドも狭くなるし、もう後の解決策が校舎建ったからもう当分いけるやろうみたいな見通しで、本当に先ほど区長さんがおっしゃったように、教育環境そのものがそれでいいのかっていう問題が、まさに起こってくるだろうと。これはもうすでに開平小も中大江も南大江も玉造も同様な状況にあるということで、オール中央区で考えるとしたら、本当に抜本的なものの考え方見方、見直し方っていうのが要るのかなと思いつつも、ただしやはり、通学区域っていうのが今どうしてもある中で、どういった形で、児童生徒をうまく分散させていくのかというか、行き先を固定化するのではなくて、もう少し弾力的に、対応できたらなあと思うのもひとつ思うところです。

ただし私もずっとこの課題と直面していたんですけども、本当に妙案名案がなくて、打つ手打つ手が結局対処療法的なもので、本当に11年経ってやっぱり予想してた状況が今まさにこの目の当たりにしてるなというところなんです。金曜日に東中の学校協議会だったんですけども協議委員の皆さんからも、かなりの不安感と、一方で、どうした解決策があるのかっていうことが、ご意見としてもたくさん出たところなんですけれども、今中央区さんの方からいくつかご提案いただいただけでは、本来の子供たちの教育環境を整備して、よりよい学習に臨んでいける学校が、どうしたらできるのかなということが、まだまだ見通し立たないという状況です。

ですので当然外国籍児童生徒の問題であったりとか、不登校児童生徒の問題だったりとか、そういった子供たちの状況に応じた教育内容の充実ということも当然必要なんですけども、そもそもの学校が成り立つかどうかということの大きな環境問題抱えてますので、本当に教育委員会事務局もそうですけども、区役所さんの皆さんの本当に懸命なご努力を感じつつも、本来に来年度再来年度どうなっていくのかなというのが正直な気持ちが強い状況です。あくまで意見です。以上です。

#### 【稲嶺区長】

はい。ありがとうございます。かなり総括的な部分大きな視点からのご意見もちょうだいできたかなと思ってます。

これ、やはり、校地をどこかで確保をしないことには難しいというところもありますし、校区割りをするということになると、もう中央区全体をどう再編成するんだという形になりますので、賛否両論というか、こっちがOKやったらこっちが難しいみたいなことも出て参りますのでね、本当は難

しいんですが、ただ、やっぱり全体見ましたら、やっぱりそういうことも必要やねっていう議論が出てくるタイミングがあるだろうなという気もしてます。そうすると、そこも、今日のこの場でも、そういう意見も出てきてるし、もっと知恵出すべきちゃうかとかいうこともありますんでね。今本当にスタートラインに立って、いろんな手段を尽くしていくということが必要かなというふうに思っております。

【平田中央区教育担当課長】

私からも、今、いろいろ、ご意見いただいて、ご心配にされてるところごもっともかと思います。もう本当に、すごく極端な話をしますと、この学校には何人まで入りますよ。そうしたら、もう人数でそこで住んでいる子の人数で線引きをして、もう地域もなにもなく、住んでるこの人数で、通学区域をまた分けるのかっていう極論なことになってしまうんですけれども、当然我々行政といたしましては、この地域のコミュニティの大切さっていうことは、非常に重要と思っております。

そうした中で、いろいろご要望もいただいていて、一方で、中大江も南大江も中央小も玉造もいっぱいですよ、じゃあどうしましょうか、というふうなところで非常に大きな、課題に直面をしているところなんですけど、皆さんいろいろお知恵を、正直もっと厳しいお言葉をちょうだいするかなと思ってたんですけれども。いや、何とか、どうしたら、みんなで解決していけるかなということを思っていただけなのかなあとふうに感じておりますので、とにかく丁寧にお話を聞いて、ご意見を伺い、我々もやっぱりご説明をして進めていくっていうことが何よりも大事かなと思っておりますので、またこういう場で、次も、また、進捗のご報告もさせていただくかと思っておりますので、その際にもまたいろいろご意見いただけたらと思っております。

【瀬戸議長】

委員の皆さんありがとうございました。では現役の玉造PTA会長、日高さん最後のご感想を。

【日高委員】

はいありがとうございます。

私実は30数年前に入学した小学校が東平小学校という、今もう、廃校になって、タワーマンションがまさに建ってて、半分はグラウンドになってるんですけども、その当時、私の親が要は統合して中央小学校に行くってのがちょっと遠いやろということで、玉造すぐ引っ越したわけじゃないですけど、要はもう違うところに住んだ方が子供のためになるよというときに、そのうちの親は、判断をしてそういうことで、1年生の2学期ですかね私の場合でいうと、そういう学校がなくなるという話があったんで、転居するっていうような経験をしましたんで、今まさにそういうお話がありましたけども、バサッと切るようだとかどっかに寄せるっていうようなことをすると、やっぱりそういう親御さんからするとこうね、子供さんのことが心配だからそういうことを、最善やと思ってされるんですけども、それが果たして、子供の立場から取ったらどうやっていうと、なかなか環境が、しかも最初からじゃなくて途中で変わるみたいなことっていうのはすごい子供にとっては、ハードルの高いっていうようなことが、私自身も経験したようなことですけどもね。そういうことが、100点の答えはないというお話があってまさにそうだと思いますけども、いろんな要素が出てくるやろなあというのが、個人的な体験も含めて、やっぱり子供の負担にならないようなことになってというのが、一番にこなあかんことかなというふうには思います。

今玉造の状況で言うと、校舎増築もしていただいて、やっと若干落ち着いたかなというところだったんですが、この間も地域見てみたら今、例えば1つの敷地が何か建物が壊れたらですね、その横の空き駐車場やったところがこがっちゃんこしてですね、1つの大きい敷地になってほんでまたタワーマンションを建てようかっていうお話が、これ地域の人も含めて想定しなかったことがまた急に、出てきて、それなりの敷地なんでやっぱり大きなものが建つと、子供さんもそれなりに出てくるだろうというようなことがまた、日常茶飯事のように出てきてるんで、そしたらもうこの、一旦落ち着いたよねっていうところもですね、玉造で言うと今1年生が入ってくるともうすべて4学級になるということっていうと、もう $4 \times 6 = 24$ で、普通教室はまだ1個余裕がありますけども、これがまだ来年、再来年とこう1年生が増えるだろうというようなことっていうと、またいろいろやっぱ足りんようになってくると、せっかく増築したのにすぐやっぱり足らんようになる、そうしたら理科室を潰すんかとか、家庭科室を潰すんかとか、そういう話をして何とかやりくりをするということも想定せなあかんのですかねというようなことは、これは校長先生ともお話をしていると、出てきます。

加えて言うと例えばいきいきなんかもね、これ学校とは別の組織とはいえ、放課後の話でいうと、やっぱり1年生2年生っていうのは非常に預かって欲しいというニーズがある中でいうと、常時100数十人、120とか130ぐらいが、預かって欲しいと言うてくると、でピークでいうと150人ぐらい預かる時があるんですと。けども今使ってる教室といたらもういわゆる普通教室ぐらいの大きさの部屋が1つと、もう1つその防災の倉庫で使ってるところを1部屋使って、それでも、いきいきの指導員の方からしたら部屋1つもうたから、ありがたいとか言うてくれはるんですけども、ただその子供が放課後に宿題して、なんやかんやしようと思ったらもう全然スペースとしては足りひんというようなことなんかもですね、ありますし、長期休暇のときでも、やっぱ100人ぐらいは来てるというふうなことでいうと、そういうのはどうすんねんとかですね。

あと、さっき図書の普及というか、活用してっていう話もありましたけど、やっぱ児童が増えた分、例えば図書室の蔵書がほんなら見合う分増えてるんかっていうと、なかなかその辺も追いついてないということである、司書さんが来てくれたんでね、子供が触れ合い方っていうのが今までも深まったっていうのは、いい面もあるというふうには聞いているんですけども、ただなかなかその根本的に子供が満足に本読めるぐらいの、行き届くぐらいのものが、きちっと伝わってるかっていうとそういうことも足りひんというようなことも聞いたりもしてますんで、そういうところであるとなかなか、子供が、本来、得られるような、玉造の場合、グラウンドの広さもあるんですけども、そういうところが当たり前の、受けれるようなものが受けられへんっていうところは、何とかしてあげなあかなあと。だから逆に言うと子供さんが少ないところでも、例えばクラス替えとかあってね、そうやって環境が変わって新しい友達ができていうところもそれをある意味当たり前、経験できることっていうのができてないっていうこともあったりするんで、そういう子供の視点にたったら、どういうことができるんかっていうことは、それは大人がいろいろ知恵を絞って、いろんな可能性を示してあげるっていうのは、これは大人の責任やと思いますんでね。その辺は地域も含めて、いろんな地域と話してるとまたいろんなお声があるのはPTAとしても認識はしてるんですけども。

そういうこともいろいろ、乗り越えるところは乗り越えてやっていかなあかなあというようなところを日々、活動しながら感じてるかなというところでは。はい。すいません、長くなりましたけど。

【瀬戸議長】

ありがとうございました。

それでは議事についてはこれで終了とさせていただきます。円滑な進行にご協力いただきありがとうございました。この後の会議進行について区役所の方にお任せいたします。よろしくお願いいたします。

【覺野中央区教育担当課長代理】

はい。ありがとうございます。

議長をはじめ、委員皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。レジュメにございますように4番、終わりにということで、区長より、最後締めていただきます。ご挨拶よろしくお願いいたします。

【稲嶺区長】

はい。冒頭申し上げたところでもあるんですけども、この4年間、皆様方に本当にいろんな意見ちょうだいしてありがとうございます。また、私はですね、せっかく委員の皆様来ていただくのに、意見をあまり述べなくて帰っていただくのは非常に心苦しかったということもありますので、こういった場も、或いは区政会議なんかもですね、できるだけ皆さんからご意見ちょうだいできるような場にしていきたいというふうに思っておりました。今の流れといたしましてもやっぱり地域の皆さんの声を聞くということは、大阪市の中心的なトレンド、課題になっておりますのでね、これは次の区長にもしっかりと引き継いで、皆様の声をできるだけお聞かせいただいて、そこで対話をしていくと、その中でやはり気づくところ、行政だけではやっぱり思いつかないところも含めて、たくさんあろうかと思っておりますので、また、中央区は、地域の皆様が本当にすばらしい意見をお持ちの方多いと思っております。こういう皆様方に支えられて、区行政が前へ進んでいくんだろうなと。確かに非常に解決が困難な課題もまだまだございますし、これからまた、人口の問題、学校の問題、それから中にはグリ下みたいな問題もですねやはり、繁華街を抱えた中央区でございますので、出て参ります。そういった中で、また皆様方のご意見ちょうだいしなが

ら、進めて参りたいと思いますので、本当に4年間ありがとうございました。

【覺野中央区教育担当課長代理】

ありがとうございました。

それではこれをもちまして本日の会議を終了させていただきます。なお、お帰りの際は1階の東側への、東側の時間外出口をご利用ください。

本日はどうもありがとうございました。